

全国看護師養成所を対象とした看護師国家試験に関する調査

－現役生に対する教育的支援の実態と合格率別支援状況の比較－

藤田 和加子 神戸 美輪子*

1. はじめに

看護師国家試験（以下、国試とする）は、保健師助産師看護師法第 17 条の規定により、看護師としての必要な知識と技能を求められる国家資格試験である。看護師を目指す学生にとって、看護師免許を取得することは最終目標であり、教員も学生の夢が叶うよう教育的支援を行っている。

大学教育の全体の大きな課題として、目的意識の希薄化、学習意欲の低下が進行していると言われている。そのため社会や保健医療を取り巻く環境の変化と多様化に伴って教育内容の工夫が必要とされており、学校教育では社会における自己実現に向けて自らの生き方や学び方を教えていくという教育の在り方が期待されている。

看護師国家試験合格に向けての取り組みについて、各校の実践報告は多くみられるが、看護師養成所の支援の現状は明らかになっていない。そこで本研究では、看護師養成所の国試に対する教育的支援の実態や合格率別支援状況の比較検討をした。

2. 研究目的

全国看護師養成所を対象に質問紙調査を行い、国試に向けての支援の実態を把握し、国試合格率によって支援に違いがあるかを比較検討する。

3. 研究方法

3-1 研究デザイン
量的記述研究デザイン

3-2 研究対象

第 103 回看護師国家試験を受験した 1102 校の看護師養成所のうち、平成 26 年 4 月までに閉校をしている 120 校を除く 982 校の、国試に関して中心的に担当をしている教員 1 名

3-3 調査期間
平成 26 年 5-6 月

3-4 データ収集方法

質問紙郵送調査

3-5 分析方法

質問内容の各項目を記述統計後、第 103 回現役国試合格率の 95.1% を基準に、「100%」「95.1～100%未満」「95.1%未満」の 3 群に区分し Kruskal-Wallis の検定を用いて比較した。

3-6 倫理的配慮

本研究は畿央大学研究倫理委員会の承認を得て行った。

4. 結果

4-1 対象者の属性

質問紙の回収は 410 校、回収率は 41.8% であった。対象となった看護師養成所の属性を表 1 に示した。有効回答は設置主体と平成 26 年看護師国家試験新卒合格率の未記入を除く 380 校で有効回答率は 92.7% であった。

表 1. 対象となった看護師養成所の属性 N=380

設置主体	国・公立	127校	33.4%
	私立	151校	39.7%
	その他	102校	26.9%
教育課程	看護系大学	52校	13.7%
	看護系短期大学（3年課程）	13校	3.4%
	専門学校（2年課程）	79校	20.8%
	専門学校（3年課程）	212校	55.8%
	高等学校専攻科	15校	3.9%
	その他	9校	2.4%

合格率 96.9% (±4.4%) 最小 77.4 (1校) ～最大 100% (167校)

4-2 現役生における国試の取り組み状況の実態

「国試合格率にプレッシャーを感じているか」では、全体の 80% 以上が「大変そう思う」「ややそう思う」と答えていた（図 1）。国試結果について分析をしているか」では、「している」「おおまかにしている」が 90% を占めていた（図 2）。「国試に関する委員会はあるか」では、「ある」と答えたのは 50% 以下だった（図 3）。学生（一部の学生でも）に予備校を勧め

* 畿央大学

ているかでは、40%が勧めていた(図4)。「国試の学習環境(自習室・国試に関する教材など)が整っているか」では、半数以上が「そう思う」「ややそう思う」と答えていた(図5)。「学生に国試に関する不安が軽減するような声掛けをしているか」では70%が「している」と答えていた(図6)。「学生に学校として総合的に十分な関わりができていないか」では、70%以上が「そう思う」「ややそう思う」と答えていた(図7)。

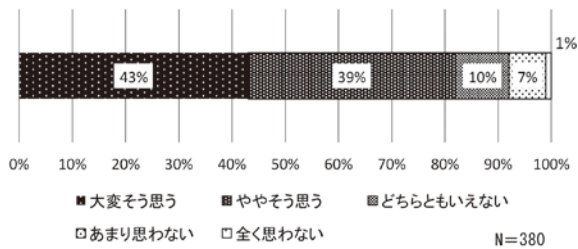


図1. 国試合格率にプレッシャーを感じているか

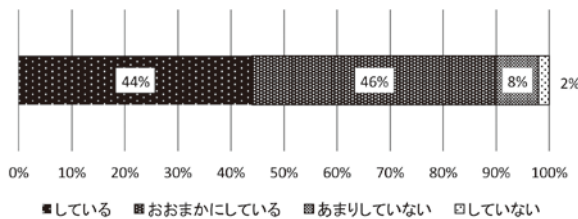


図2. 国試結果について分析をしている

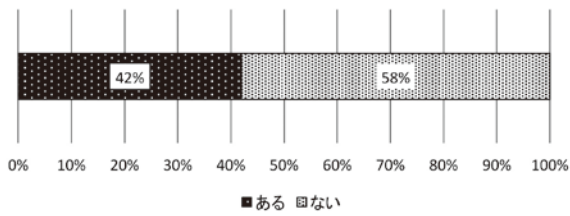


図3. 国試に関する委員会はあるか

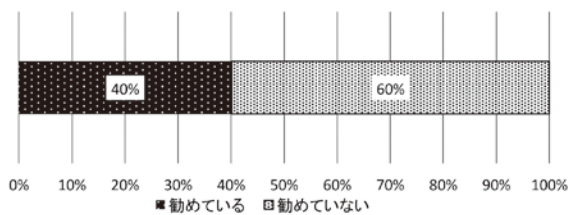


図4. 学生に(一部の学生でも)予備校を勧めているか

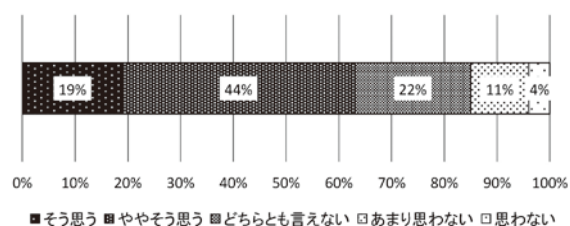


図5. 国試の学習環境が整っているか(自習室・国試に関する教材など)

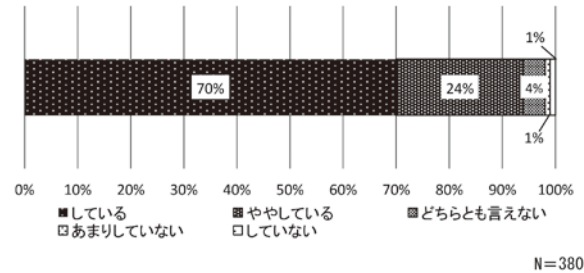


図6. 学生に国試に対する不安が軽減するような声掛けをしているか

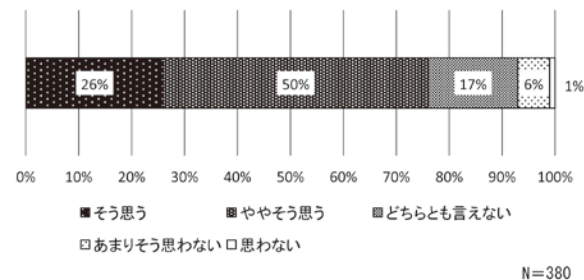


図7. 学生に学校として総合的に十分な関わりができていないか

4-3 現役生合格率別にみた国試の取り組み状況
 合格率によって支援の程度や教員のサポート意識の差をみるために、対象施設の現役生国試合格率を3群に区分した(図8)。合格率100%は167校の44%、95.1~100%未满是123校の32%、95.1%未满是90校の24%であった。以下、合格率100%を高群、95.1~100%未満を平均群、95.1%未満を低群とする。

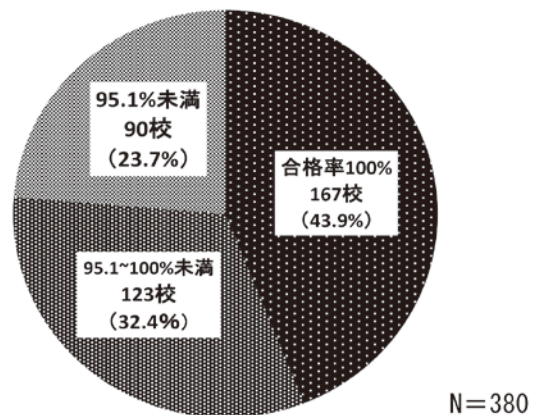


図8. 対象施設における現役生国試合格率の割合

4-4 現役生合格率別にみた3群間の比較
 3群間に差がなかった項目を表2に示す。「合格率にプレッシャーを感じているか(5段階)」「国試の学習環境(自習室や国試に関する教材など)が整っているか(5段階)」「模擬試験回数での比較(整数値)」「国試に向けて学生同士で教えあっている(5段階)」では、3群に差はなかった。

3群間に差があった項目を表3に示す。「国試合格に向けた教員の協力の割合(整数値)」「国試対策で学習効果が上がっているか(5段階)」「教員の関わり

は合格率に反映されるか (5 段階)」「学生に学校として十分な関わりができていないか (5 段階)」で有意差がみられた。

表2. 差がなかった項目 N=380

	95.1%未満 (n=90)	95.1~100%未満 (n=123)	100% (n=167)
	M (SD)	M (SD)	M (SD)
合格率にプレッシャーを感じているか	4.12(0.86)	4.06(1.04)	4.23(0.94)
国試の学習環境が整っているか	3.68(1.02)	3.55(0.93)	3.68(1.09)
最終学年の業者模試回数	6.11(4.23)	6.20(2.88)	6.32(3.26)
国試合格に向けて学生同士で教えあっているか	4.31(0.67)	4.37(0.80)	4.43(0.78)

表3. 差があった項目 N=380

	95.1%未満 (n=90)	95.1~100%未満 (n=123)	100% (n=167)
	M (SD)	M (SD)	M (SD)
国試合格に向けた教員の協力の割合	7.43(2.93)	7.97(2.84)	8.35(2.77)
国試対策で学習効果が上がっているか	4.03(0.62)	4.25(0.63)	4.40(0.62)
教員の関わりは合格率に反映されるか	4.09(0.64)	4.26(0.85)	4.49(0.73)
学生に十分な関わりができていないか	3.69(0.83)	3.88(0.93)	4.13(0.80)

*p<0.05 **p<0.01

5. 考察

単純集計の結果では、対象施設の 80% 以上の看護師養成所が国試合格率にプレッシャーを感じていた。看護師は医療現場においてニーズが高く、不況による就職難もあることから志願者が急増している。看護師を目指す受験者にとって、国試合格率は看護師養成所を選定する指標や学校の評価に繋がるため、合格率にプレッシャーを感じている教員は多いと考えられる。

合格率別で比較検討した結果では、「国試の学習環境が整っているか」「最終学年の業者模試試験の回数」に差はなかった。学習環境のハード面や模試試験回数では、合格率に変わりはないと言える。「国試合格に向けた教員の協力の割合」では、高群は低群に比べより高い割合で協力が得られていた。「国試対策(講義や模試試験など)で学習効果が上がっているか」では、低群は高群、平均群より有意に低い結果であった。3 群とも平均値が 4 以上あり、講義や模試試験で

学習効果は上がっていると実感しているものの、合格率の高い看護師養成所は、より効果の高さを実感しているといえる。「教員の関わりは合格率に反映されるか」「学生に学校として十分な関わりができていないか」では、合格率高群が低群より有意に高かった。合格率に関わらず国試に対する教育的支援は行っているが、合格率の低い看護師養成所は教員の支援が反映されず、学生に十分な関わりができていないと感じている。

謝辞

本研究の趣旨を理解し快く協力していただいた、全国の看護師養成所の皆様に心から感謝します。

付記

本研究は畿央大学院健康科学科に提出した修士論文の一部に加筆・修正したものである。

参考文献

- 1) 文部科学省：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会，最終報告 (2011)
- 2) 前川玉緒：学習リテラシーに乏しい学生に対する国家試験学習の支援，看護教育，50 (7)，584-589 (2009)
- 3) 島田千恵子：国試対策は学生が入学した時から始まっている，看護教育，55 (6)，468-471 (2014)
- 4) 大日向輝美：誠実に胸に刻むことともに未来を語ること 合格率 100% の背景にあるもの，看護教育，55 (6)，484-492 (2014)

受理 2016 年 3 月 2 日

〈連絡先〉

藤田和加子

〒538-0053 大阪府大阪市鶴見区鶴見 6-2-28
大阪信愛女学院短期大学

E-mail : w-fujita@osaka-shinai.ac.jp